

スタートアップと市役所が協働する、地域課題解決プロジェクト 「Urban Innovation TOYOHASHI」の実証実験を開始します

豊橋市では、社会・地域課題をスタートアップと市職員が協働して解決するプロジェクト「Urban Innovation TOYOHASHI（アーバンイノベーション豊橋）」を実施しています。

豊橋市が目指す課題解決に、ともに挑戦するスタートアップを全国から募り、4年目となる今年、過去最多となる43社からの応募がありました。この度、今年度の実証実験に取り組む2課題2社を決定しましたのでお知らせいたします。



ポイント

今年度の2課題は、多くの市民が利用する「福祉サービスの制度案内」と「学校体育施設の予約」について、デジタル技術を活用し、便利にすることを目指します。

また、実証実験で得た成果を豊橋発のサービスとして全国に展開できるよう取り組んでまいります。

実証実験① 24時間応答可能なAIを活用した福祉サービス案内ツールを導入します！

担当課	障害福祉課
パートナー企業	株式会社トゥモロー・ネット（東京都品川区） 代表取締役社長 李 昌珍 ＜業種＞AIプラットフォーム事業／クラウドコンピューティング事業／SDI事業 【登壇者】取締役副社長 松浦 淳 【選定のポイント】 複雑な福祉サービスを、ボイスボット（聴覚）とチャットボット（視覚）を同時に使って案内するという独自性や、先進的な技術力が評価された。
解決したい課題	障害者が受けられる福祉サービスは複雑で多岐にわたるため、市民が自力で調べるのは難しい。また電話などによる問い合わせも増加している。
実証実験の概要	ボイスボットとチャットボットが融合された案内システムを導入することで、音声・テキストの両方から、市民に福祉サービスを案内することができるほか、24時間問い合わせに対応することができるようになる。 

裏面に続く→

実証実験② 煩雑な学校体育施設の予約の仕組みをデジタルに切り替えます！

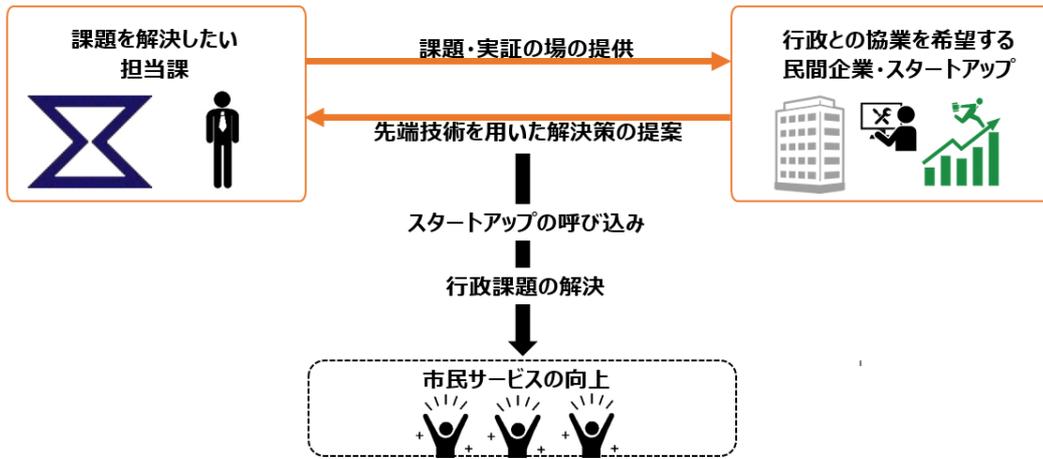
担当課	「スポーツのまち」づくり課
パートナー企業	株式会社構造計画研究所（東京都中野区） 代表執行役会長 服部 正太 ＜業種＞コンサルタント・専門コンサルタント ソフトウェア/情報処理/シンクタンク/建築設計 【選定のポイント】 学校によって異なる扉や鍵の形態に各種対応できる柔軟性や、スマートロック等の高い製品技術が評価された。
解決したい課題	学校の体育施設開放は、学校の教員が電話や対面で予約を受け付けているほか、鍵の管理も地域の市民館で行うなど、市民・教員・地域それぞれにとって負担が大きくなっている。
実証実験の概要	予約システムを導入することで、市民はわざわざ窓口に出向く必要がなく、オンラインで予約ができるようになる。 また、スマートフォン等を使って鍵の施錠管理ができるスマートロックを導入することで、鍵を借りに行かずとも、予約時に鍵の代わりとなる暗証番号が発行され開閉することができるようになる。 

※事業スキーム、今後のスケジュール、これまでの実績については、**別紙**をご覧ください。

問合先 地域イノベーション推進室 室長補佐 小野（電話 51-3155）

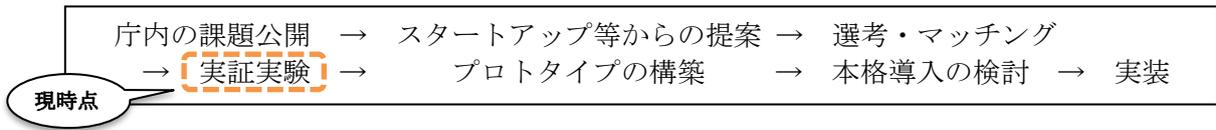
■アーバンイノベーション豊橋とは

社会・地域課題をスタートアップと市職員が協働して解決するプロジェクトです。



■今後のスケジュールについて

スタートアップと市職員は、8月中旬から12月までの約4か月間協働して、市民等によるテスト利用や市役所業務の中での試行導入・実証実験などを行い、本格導入を検討します。



- 5月26日 : スタートアップ募集受付開始
- 6月6日 : 公募説明会
- 6月25日 : 募集締め切り
- 6月下旬～8月中旬 : 選考（書類審査及び面談）
- 8月中旬 : 採択チーム決定
- 8月中旬～12月 : スタートアップと市担当職員との協働開発 試行導入・実証実験
- 2月頃 : 成果報告会

■これまでの実証実験の実績

- 令和2年度：3件（多文化共生・国際課、長寿介護課、農業支援課）
- 令和3年度：2件（選挙管理委員会、ココエール）
- 令和4年度：2件（市民税課、自然史博物館）

<導入実績例>

多文化共生・国際課の「外国人市民に対して、多言語でタイムリーに情報を発信したい」という課題に対し、知りたい情報に素早くアクセスできる仕組みを構築。外国人向け情報発信 Web サイト「ぼけとよ pocketoyo」として本格導入しました。現在も外国人市民の方に必要な情報をタイムリーに発信しています。



ぼけとよ WEB ページ

